

# 大学における国際協力活動

アジア・欧米・中南米での経験から

2019.12.11

電気通信大学・国際戦略室

高橋謙三

# 国際協力に関する大学の役割



二国間協力  
和衷協同



Society 5.0  
for  
SDGs



協力同心



## 大学ではどんなことができるだろうか？

- ・ 高度人材育成  
国際協業（短期派遣、短期受け入れ、長期留学）
- ・ 共同研究開発
- ・ 政府プロジェクト受託
- ・ 国際機関プロジェクト受託
- ・ 国際ボランティア（個人ベース）

## 大学による 国際協力活動

大学における国際開発協力のための基盤づくり

大学と国際援助機関との関係構築

国内の大学・海外の大学・コンサル企業等との連携促進

大学における国際開発協力実務能力の向上

国際開発協力の分野別戦略形成

## 大学における国際開発協力のための基盤づくり

国際援助機関で活躍する  
人を講師とした講演会



学生の  
理解を深める

大学と国際援助機関  
の人物交流



トップ間人脈形成

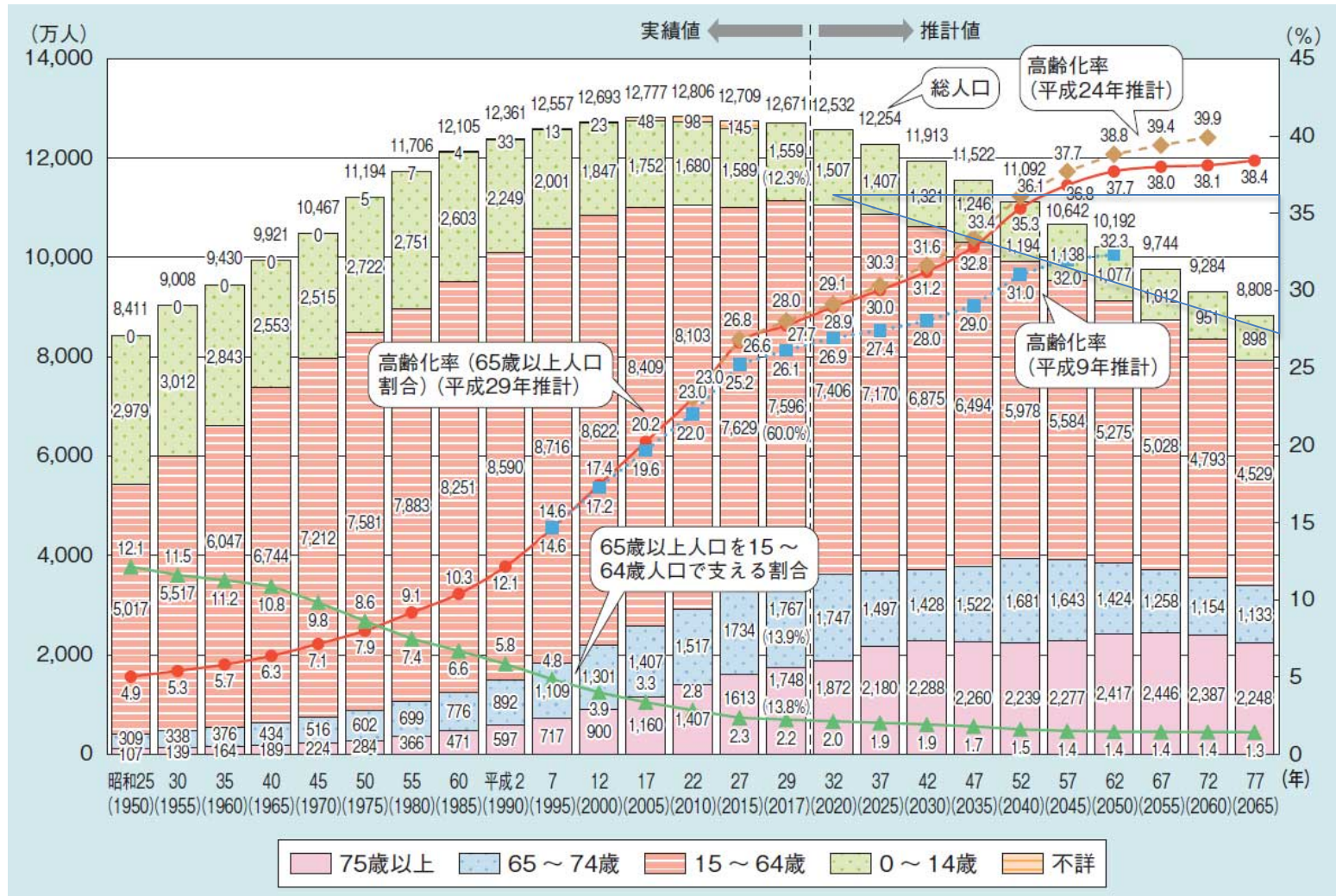
国際援助機関等からの  
国際協力に関する  
情報共有



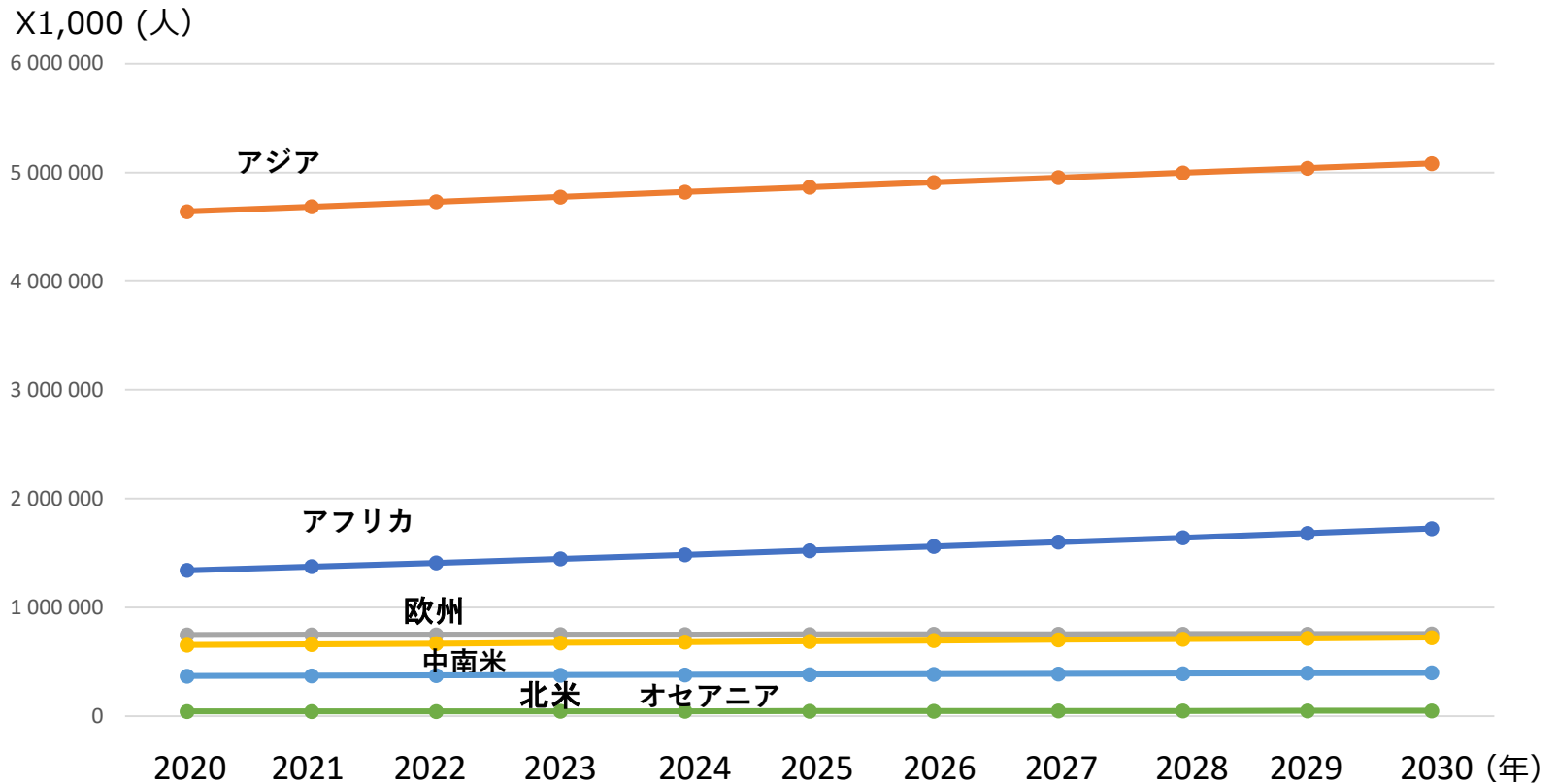
協力案件に関連する  
学内リソースの整備

# 我が国の人口構成の変化

## Background-1



## Background - 2 世界の人口

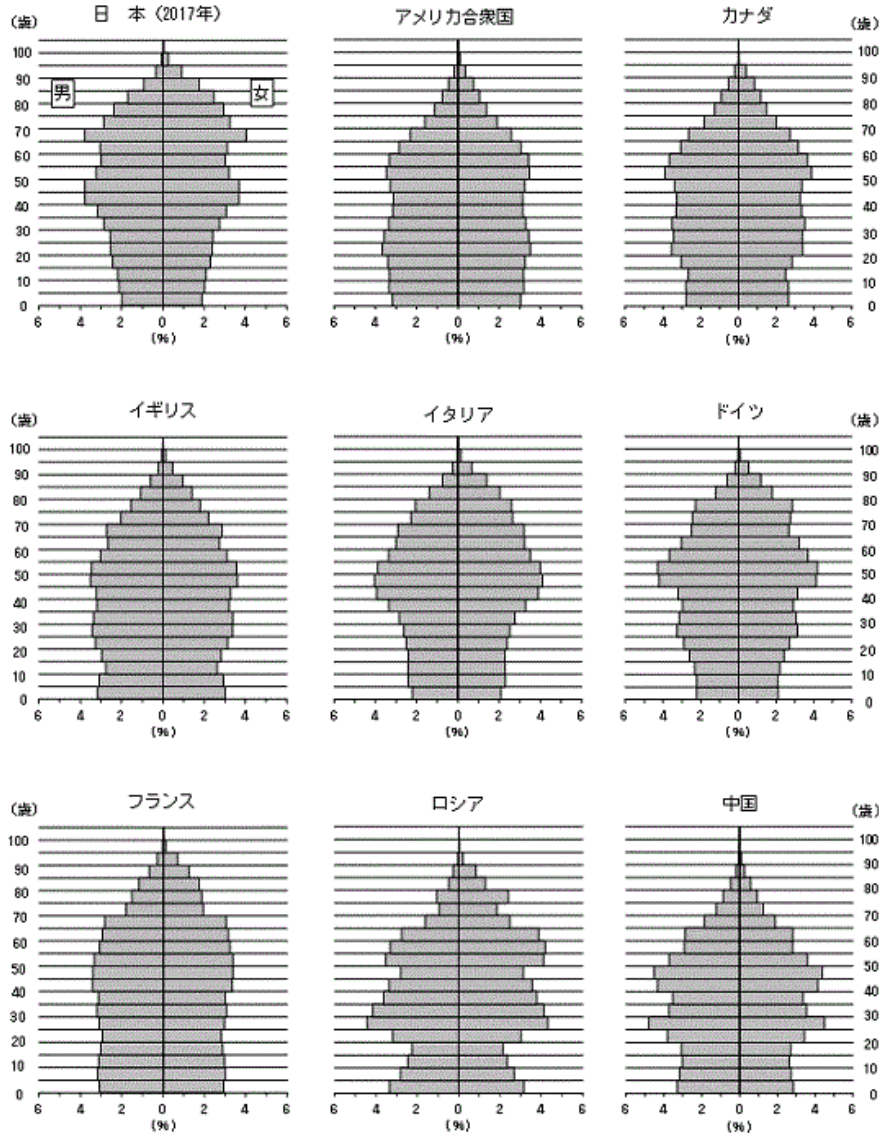


**全人口は漸増傾向にあり、アジア・アフリカが今後の中心になる。  
日本の少子高齢化傾向が続けば、国際社会でminorityになる。**

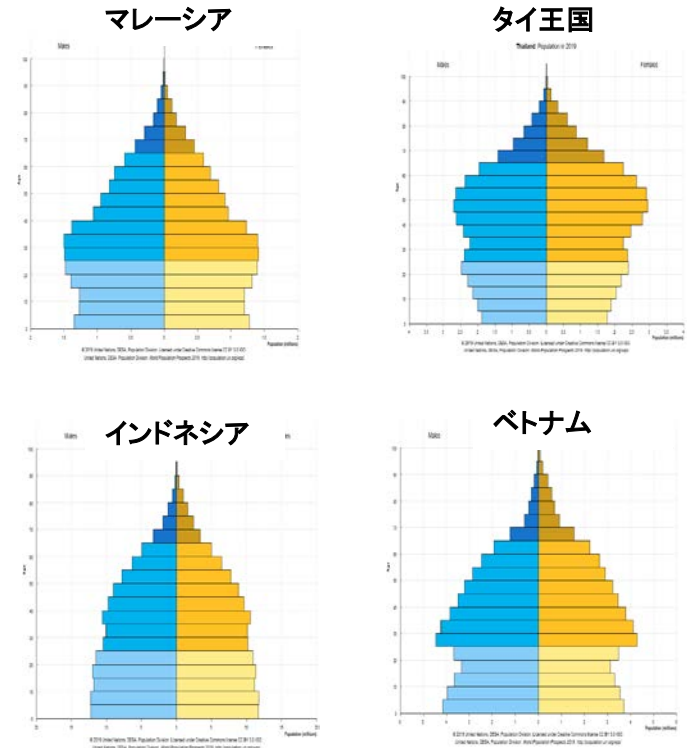
# 世界の人口構成

[グラフ]

2 人口ピラミッド (年齢階級別割合, 2015年)



- 若年層の減少傾向は、我が国の他、欧州にも多い
- 早期の対策が必要
  - ① 大学教育のグローバル化
  - ② Impact Factorの高い研究



我が国の人口が減少局面に向かう中、大学の特色ある国際化を図る。

欧米やアジアを中心とした学生や教員の流動性の高まりに応える。

教育・研究の両分野で、将来社会のリーダとして牽引力のある人材を育成する。

大学教育のグローバル展開力の強化

スーパグローバル大学創生支援

トップ型

グローバル化牽引型

大学の世界展開力強化事業

交流推進型

プラットフォーム型

留学生交流の支援

短期留学生交流支援

トビタテ留学 Japan

JASSO協定派遣

JASSO協定受入れ

長期留学生支援

国費留学

留学生受入れ促進

留学生就職促進



# 大学の世界展開力強化事業

主管 文科省  
 主催 日本学術振興会 (JSPS)  
 Inter-University Exchange Project

2011年度から毎年公募  
 補助期間 max 5年間でmax4,000万円／年度・件  
 UEC/東京外大/東京農工大の連携で実現

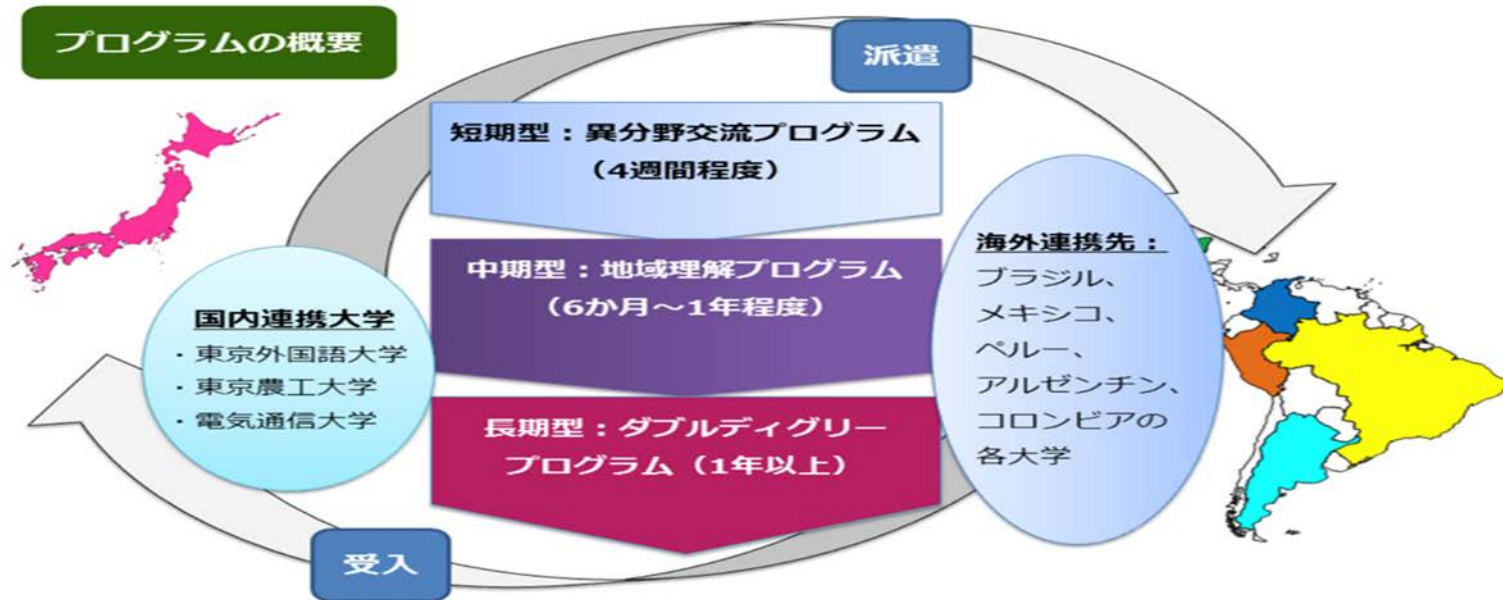
Year	Scheme	Accepted	
2011	タイプA : キャンパス・アジア中核拠点形成支援	13	
	タイプB : 米国大学等との協働教育の創成支援	12	
2012	日本と ASEAN における大学との間で実施する事業	14	
2013	海外との戦略的高等教育連携支援～AIMS	7	
2014	ロシアまたはインドの大学との間で実施する事業	9	
2015	中南米諸国またはトルコの大学との間で実施する事業 多摩3大学主体の文理協働型人材の育成	11	
2016	キャンパス・アジアパイロットプログラム	25	
	ASEAN地域における大学間交流の推進	11	
2017	ロシア・インドの大学との間で実施する交流推進事業	11	
2018	米国等の大学との間で実施する交流推進事業	10	
2019	EUとの間で実施する事業	3	

# 大学の世界展開力強化事業

主管 文科省  
 主催 日本学術振興会 (JSPS)  
 Inter-University Exchange Project

2011年度から毎年公募  
 補助期間 max 5年間でmax4,000万円／年度・件

Year	Scheme	Accepted	
2011	タイプA : キャンパス・アジア中核拠点形成支援	13	
	タイプB : 米国大学等との協働教育の創成支援	12	
2012	日本と ASEAN における大学との間で実施する事業	14	
2013	海外との戦略的高等教育連携支援～AIMS	7	
2014	ロシアまたはインドの大学との間で実施する事業	9	
2015	中南米諸国またはトルコの大学との間で実施する事業 多摩3大学主体の文理協働型人材の育成	11	UECを含む
2016	キャンパス・アジアパイロットプログラム	25	
	ASEAN地域における大学間交流の推進	11	
2017	ロシア・インドの大学との間で実施する交流推進事業	11	
2018	米国等の大学との間で実施する交流推進事業	10	
2019	EUとの間で実施する事業	3	



> **短期型 (異分野交流プログラム) :**

日本・中南米諸国の現状について理解を深める。

> **中期型 (地域理解プログラム) :**

中南米諸国が抱える課題の背景と要因を的確に把握・分析するための専門分野を中心とした能力を養成。

> **長期型 (ダブルディグリープログラム) :**

中南米諸国が抱える課題について深く理解し、それに対する解決策を提示するための総合力を養成。

**期待される効果**

**国際社会にとって**

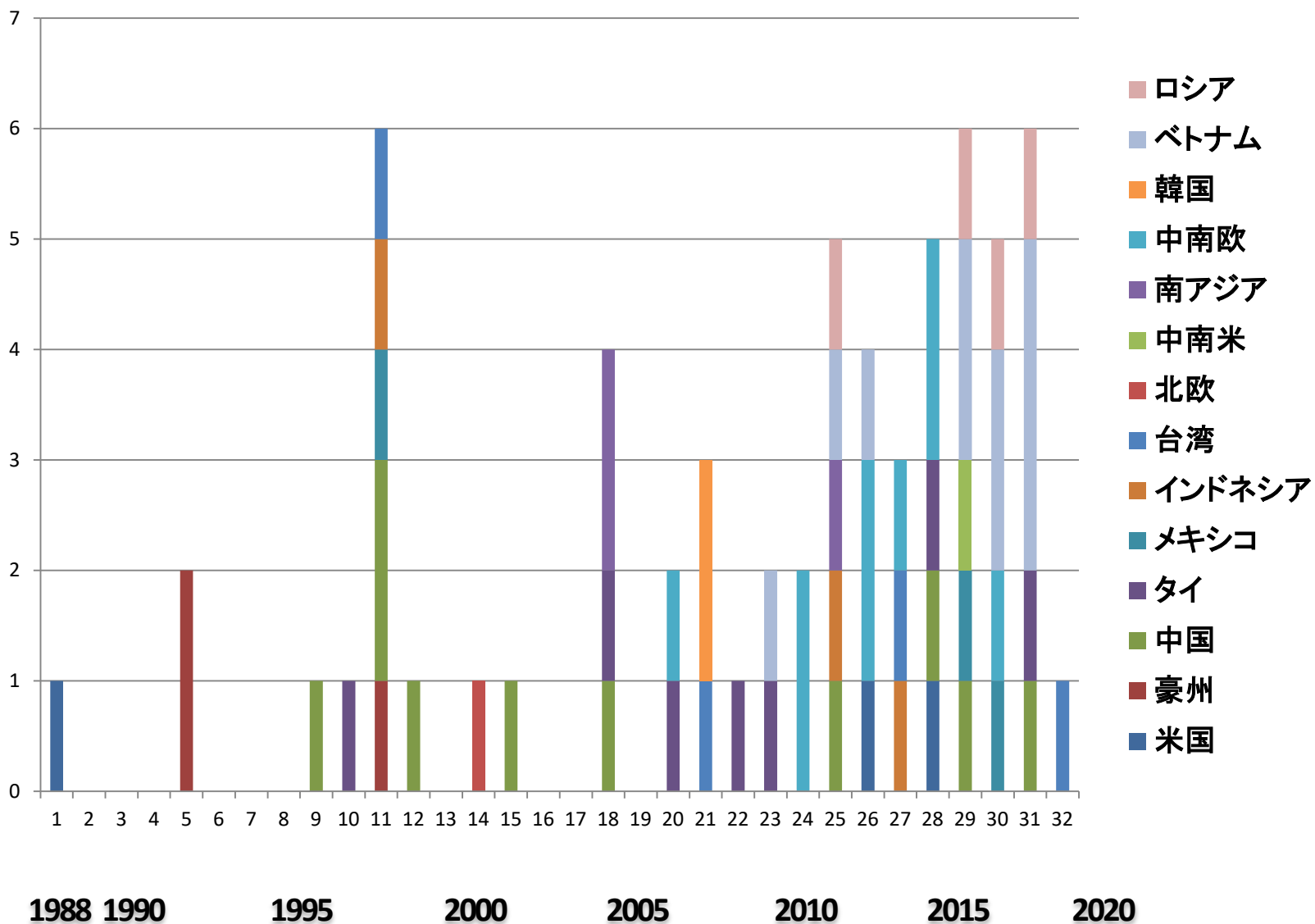
中南米地域と日本との架け橋を担う人材の創出

**国にとって**

国際機関などでの日本のプレゼンス向上

# UECの国際化と学生の双方向交流の推進

MoU  
締結数



# 大学の国際化と学生の双方向交流の推進

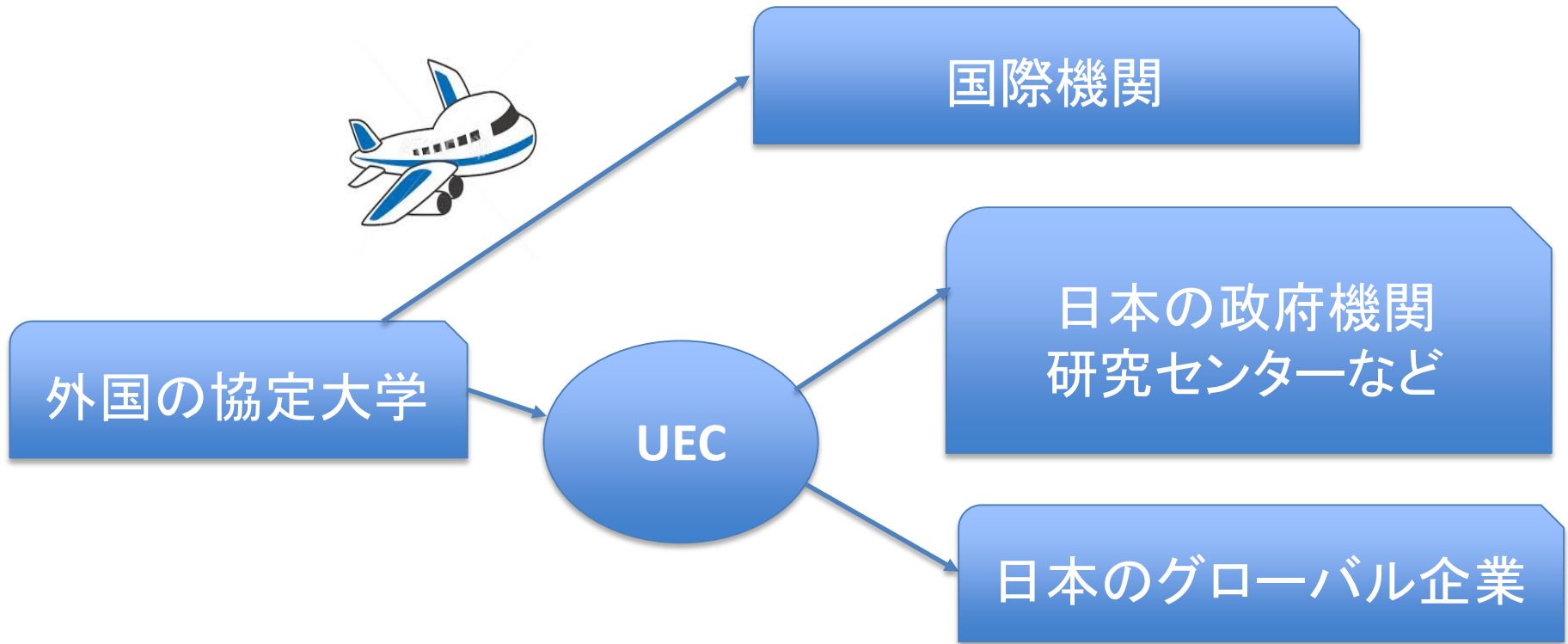
国際インターンシップ  
協定派遣利用



派遣先を充実させるには  
平常の人脈作りが肝要

プログラム主管 UEC  
奨学金主管 文科省  
奨学金主催 日本学生支援機構(JASSO)  
Japan Student Services Organization

国際インターンシップ  
協定受け入れ利用



JASSOの奨学金は、1950年に規定された国家公務員等の旅費規程に基づいており、派遣先の都市別に支給額を規定、UECへの協定受け入れでは、80,000円/派遣先滞在期間31日毎となっている結果、支給額は同額をベースとした階段状になる。

# 大学の国際化と学生の双方向交流の推進

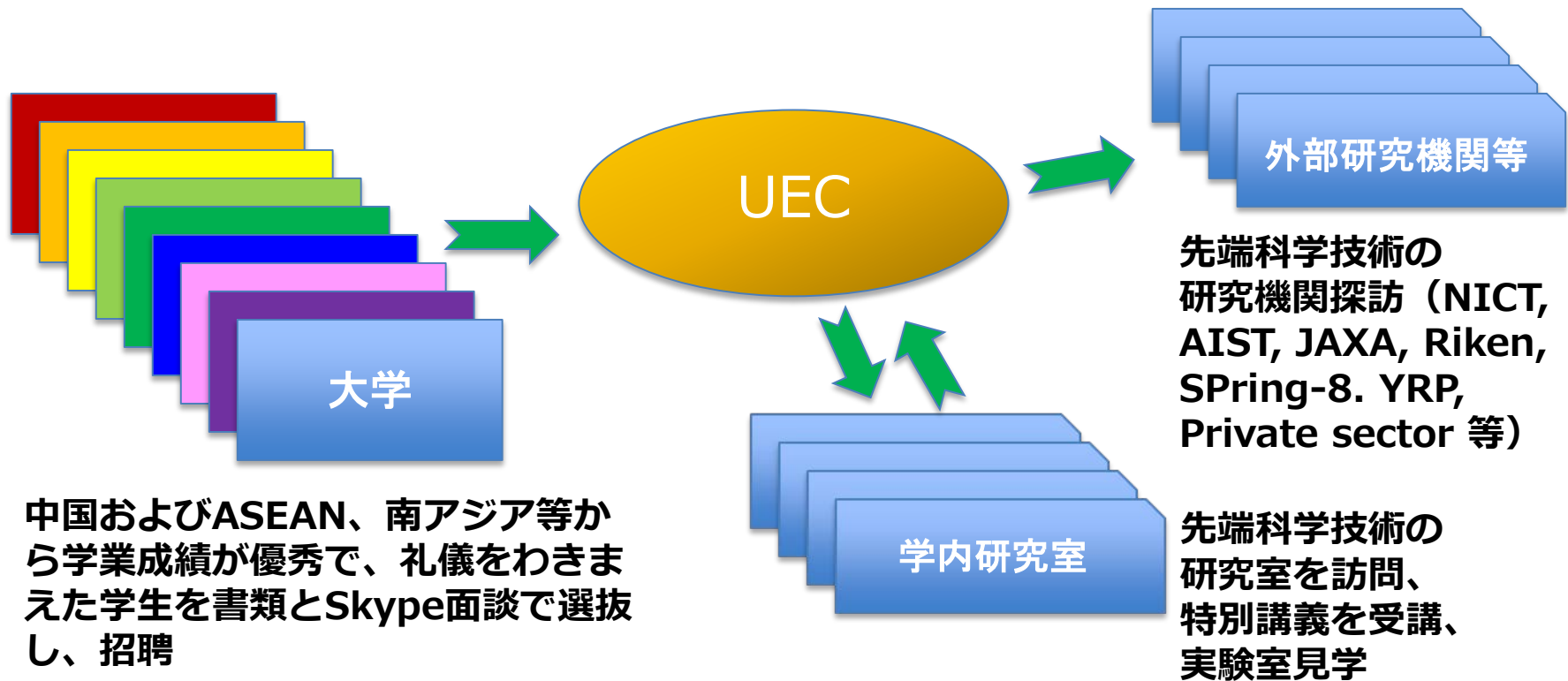
## 大学推薦派遣先例

派遣先国	派遣先	派遣人数	派遣期間
米国	ニューヨーク州立大学ビンガムトン大学	若干名	2~3ヶ月
	西海岸企業	若干名	1~3ヶ月
中国	中国科学院(CAS)	若干名	1~2ヶ月
	北京理工大学	若干名	1~2ヶ月
	上海交通大学	若干名	1~2ヶ月
韓国	韓国科学技術院(KAIST)	若干名	1~2ヶ月
台湾	台湾工業技術研究院(ITRI)	1~2名	2.5ヶ月
ベトナム	ベトナム国家大学科学技術大学 (VNU-UET)	1~2名	1~3ヶ月
タイ	タイ国立科学技術開発庁(NSTDA:NECTEC/NANOTEC/BIOTEC)	3~7名	1~3ヶ月
	タイ国立天文学研究所(NARIT)	1~2名	1~3ヶ月
	ソフトウェア関連企業	1~2名	1~3ヶ月
	コンピュータ機器製造企業	1名	1~3ヶ月
マレーシア	マルチメディア大学&テレコムマレーシア研究所	3~5名	1~3ヶ月
	国立サラワク大学&半導体製造企業	1~2名	1~3ヶ月
インドネシア	情報通信省&放送技術研究センター	1~2名	1~3ヶ月
	バンドン工科大学	1~2名	1~3ヶ月
シンガポール	南洋理工大学	若干名	1~3ヶ月
	国立シンガポール大学	若干名	1~3ヶ月
	科学技術研究庁(A*STAR)	若干名	1~3ヶ月
	医療機器関連企業	1名	1~3ヶ月
メキシコ	国立メキシコ工科大学	若干名	1~3ヶ月
ベルギー	大学間微電子研究センター(imec)	若干名	1~3ヶ月
ポーランド	ポズナン工科大学	若干名	1~3ヶ月



日本・アジア青少年サイエンス交流事業  
さくらサイエンスプラン

産学官の連携により、アジアなどの若者を日本に招へいし、日本の科学技術を体験させる事業。2014年のスタートから5年間で、JST では約26,000人の若者の招聘を実現。競争率激しい中、UECはほぼ毎年このプロジェクトを受託。UECによる招聘者の数は**増加傾向にある**。



中国およびASEAN、南アジア等から学業成績が優秀で、礼儀をわきまえた学生を書類とSkype面談で選抜し、招聘





## 目的

- (1) 参加者が科学技術の分野で交流を深めることにより、日本とアジアなどの国・地域との友好関係を強化する。
- (2) 日本の教育・研究機関のグローバル化を促進する。
- (3) 科学技術イノベーションに貢献しうる海外からの優秀な人材の育成と継続的な交流に寄与する。

### A: 科学技術体験コース

海外の若者が招聘元大学の科学技術関係交流計画に参加する。滞在期間7日以内。招聘人数は、単一機関10人まで、複数機関合計15人まで（引率者別枠）。

### B: 共同研究活動コース

海外の若者が日本の受入れ機関で短期の共同研究活動を行う。滞在期間は3週間以内。招聘人数は、原則として10人以内（引率者別枠）。

### C: 科学技術研修コース

海外の若者が日本の受入れ機関が用意する様々な技術を研修し、開発能力を高める。滞在期間10日以内。招聘人数は、1地域から招聘の場合15人以内、複数の国・地域から招聘する場合25人以内。（引率者別枠）

## 経費

招聘学生の往復航空運賃、我が国での滞在費・旅費・ビザ代・生命保険等は主催者側が支払う。



日本・アジア青少年サイエンス交流事業

さくらサイエンスプラン

UECでは2014年以降毎年さくらサイエンスプランをJSTから受託、報告者らが主体的に実施、JSTから定評を得て、UECの実施例が代表報告として発刊されてきている。

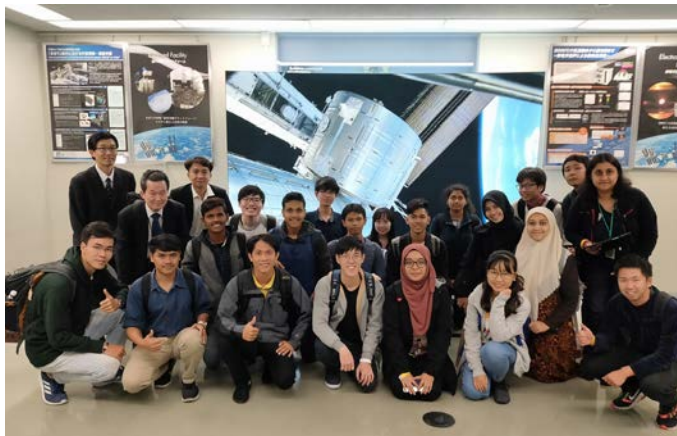
令和元年度は以下を実施し、アジアの選抜学生に、我が国の先端科学技術への理解を深め、関心を高める機会を提供してきている。以下実施例。

## 2019 Plan 1

[ASEAN+インド]の6ヶ国の9大学から  
18名を選抜し、招聘  
研修テーマ：“地球規模の環境保護に  
向けた先端科学技術を学ぶ”

## 2019 Plan 2

中国・長江流域の6大学から  
15名を選抜し、招聘  
研修テーマ：“超スマート社会に向けた先端科学  
技術を学ぶ”；主軸はIoT, AI, Robotics



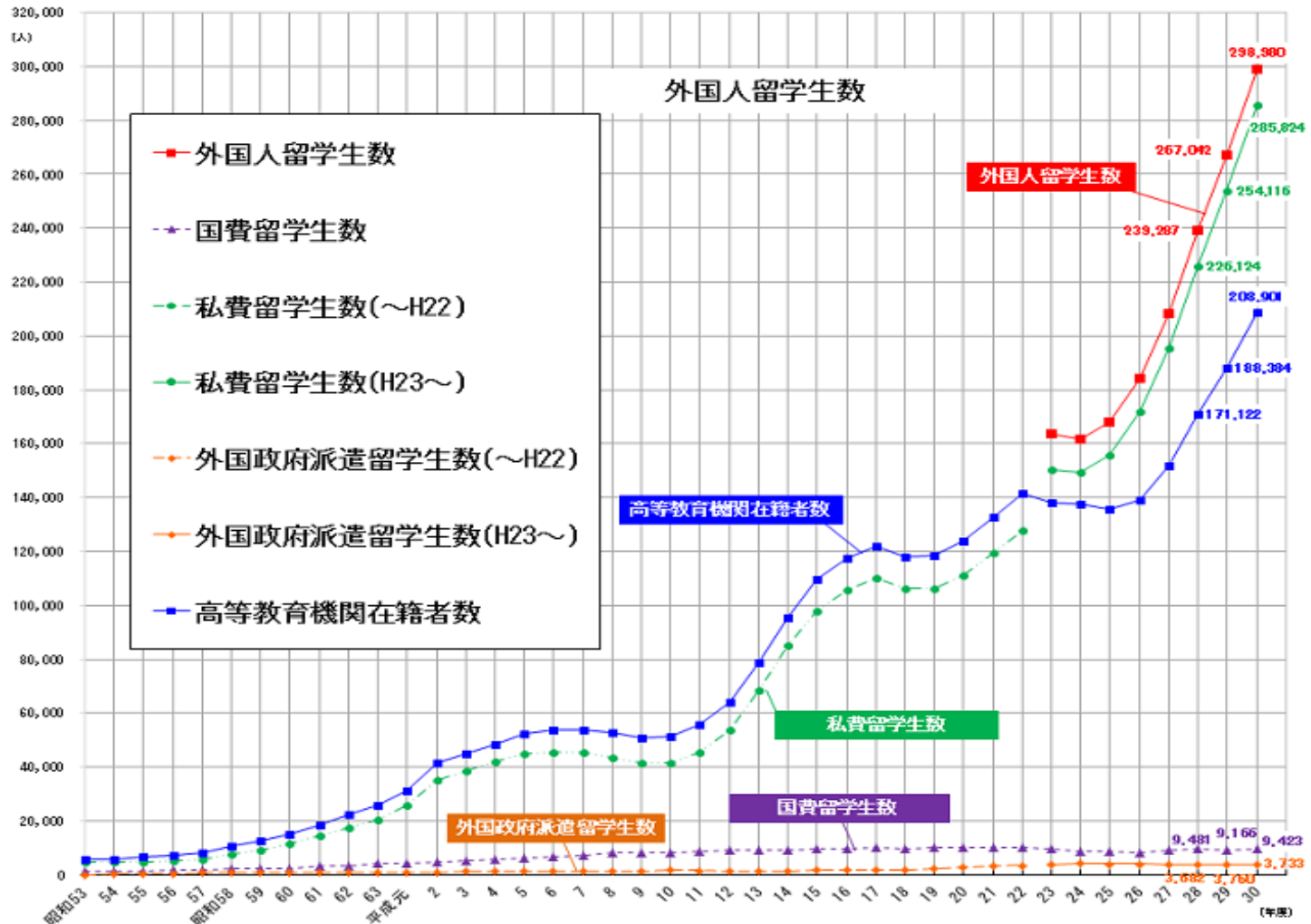
JAXA宇宙開発センターを訪問



学長表敬

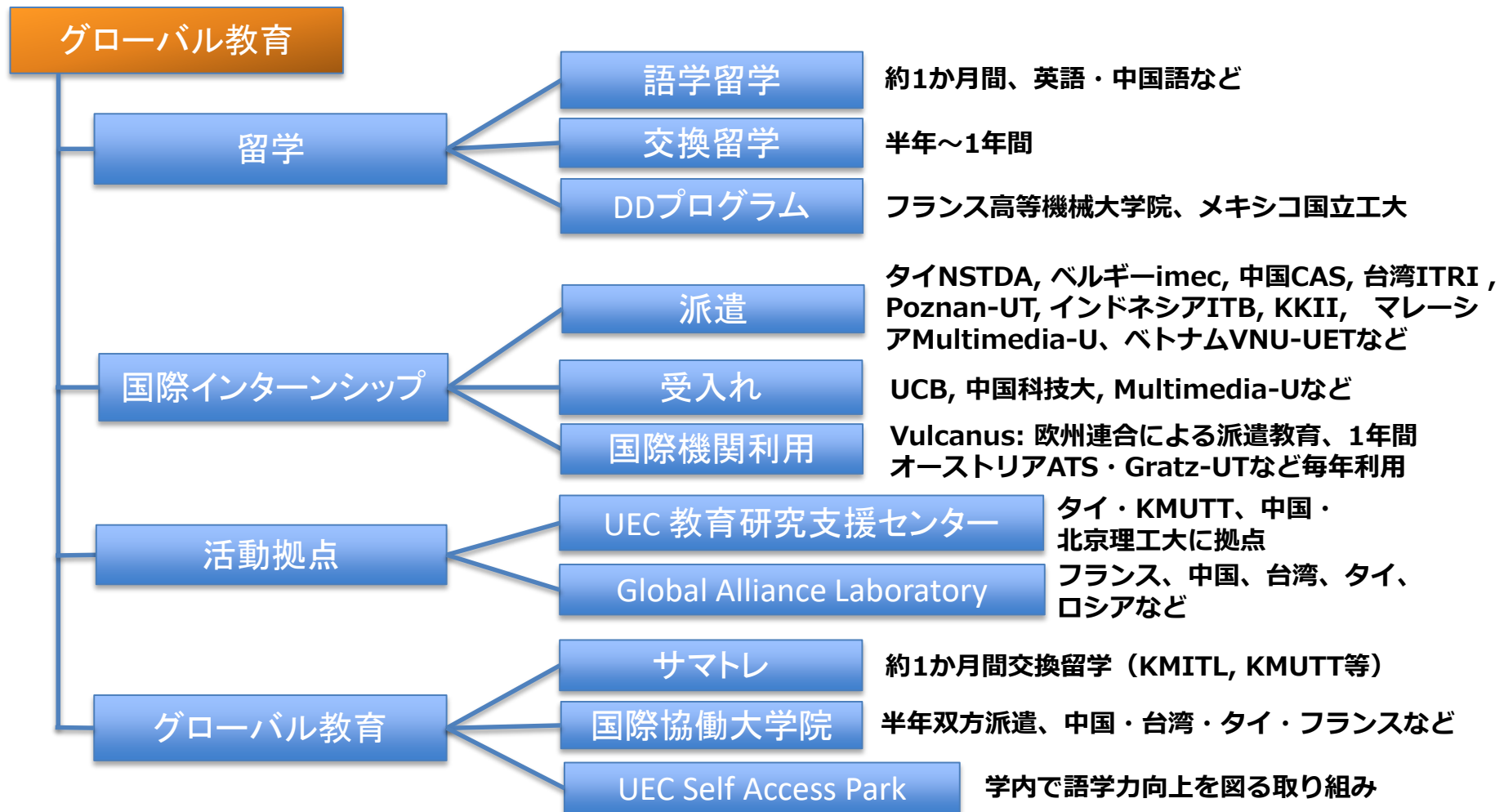
# 大学の国際化と学生の双方向交流の推進

## 我が国への留学生数の推移

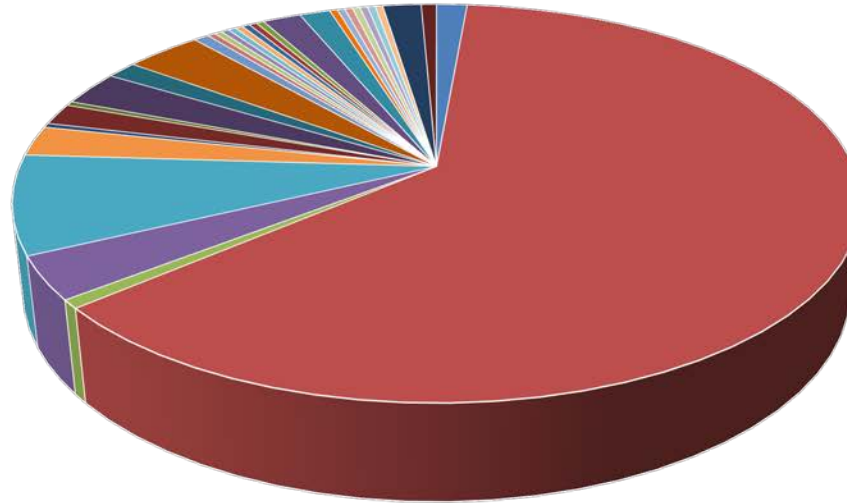


※「出入国管理及び難民認定法」の改正(平成21年7月15日公布)により平成22年7月1日付けで在留資格「留学」「就学」が一本化されたことから、平成23年5月以降は日本語教育機関に在籍する留学生も含めた留学生数も計上。

## UECにおけるグローバル教育の推進



## UECにおける留学生



在籍留学生数 = 287  
在籍学生総数 = 4,831

- カンボジア  
CAMBODIA
- インドネシア  
INDONESIA
- マレーシア  
MALAYSIA
- 台湾  
TAIWAN
- イラン  
IRAN
- カメルーン  
CAMEROON
- セネガル  
SENEGAL
- フランス  
FRANCE
- ポーランド  
POLAND

- 中国  
CHINA
- 韓国  
KOREA
- モンゴル  
MONGOLIA
- タイ  
THAILAND
- アンゴラ  
ANGOLA
- ガーナ  
GHANA
- 南スーダン  
SOUTH SUDAN
- ドイツ  
GERMANY
- スウェーデン  
SWEDEN

- インド  
INDIA
- ラオス  
LAOS
- ネパール  
NEPAL
- ベトナム  
VIETNAM
- アルジェリア  
ALGERIA
- ケニア  
KENYA
- クロアチア  
CROATIA
- ハンガリー  
HUNGARY
- トルコ  
TURKEY

以上、大学における国際協力について、経験をベースに意見を述べた。  
要旨は以下の通り。

1. 大学は本来、高等教育と学術的視野からの研究を両輪として、社会が必要とする人材を育成し、供給する機能を有する。我が国の人口が減少局面に向かう中、大学の特色あるグローバル化を図る必要がある。
2. 築いた知識と経験が社会的な公益に供する国際協力活動に役立つ場合がある。文科省の指導方針では、大学には国際援助機関等との連携促進が求められる。
3. 大学運営の視点では、外国の有力な大学等との連携が、大学のグローバル化推進に有利であり、連携の持続的な展開のためには、互恵関係を維持できることが望ましい。

# 付記(NTT関連)： Multimedia –Uでの職務の延長(学長室へのサポート)

The screenshot shows a web browser displaying the staff directory of the Faculty of Engineering at Multimedia University. The page includes a search bar, navigation tabs, and a grid of staff profiles with their names and titles.

**MMU FACULTY OF ENGINEERING**  
MULTIMEDIA UNIVERSITY

Inquire, Inspire and Innovate

About Us Programmes Prospective Students Existing Students Achievement Research Centre News & Activities For Staff

Staff Directory - Professor

Search: Enter Query  
In: Name [v] Go

Browse/Search Options [Browse by Position](#) [Browse by Name](#)

Dean/ Deputy Dean	Professor	Visiting Professor	Associate Professor	Senior Lecturer	Lecturer
Tutor/ Assist. Lecturer	Research Officer	Admin Staff	Lab Staff	Others	

**About Us**

- Dean's Message
- Organization Chart
- Management Team
- Staff Directory
- Location Map
- Floor Plan
- Facilities
- Contact Us
- Vision and Mission
- Collaborations

C Palanichamy (Adjunct Professor)	Chuah Teong Chee (Professor)	Fabian Kung Wai Lee (Professor)	Hairul Azhar Abdul Rashid (Professor)	Kenzo Takahashi (Adjunct Professor)
Md. Shabiul Islam (Professor)	Mohamad Yusoff Alias (Professor)	Mohd Ridzuan Mokhtar (Professor)	Ong Duu Sheng (Professor)	Wong Hin Yong (Professor)

## 付記(NTT関連): Multimedia-Uでの国際協力の第一歩



忘れがたい思い出の写真が1枚ある。

NTT本社国際本部の指導下で、出張ベースでのMultimedia-U創設委員会(議長Dr. Ghazie Ismail)の活動への参加の後、ようやく立ち上がったばかりのMultimedia-Uの講堂の入り口に近い一角にNTTで使用実績のあるテレビ会議システムを設置、384kb/sの専用回線を使ってMultimedia-UとNTT研究所を接続、ボトルネックの同期接続を何とか実現した。主な目的は、e-Learningへの期待が芽をふき始めた頃に、衛星を利用することで、1000km以上離れた東西マレーシアの教育に有用であることを首相ご夫妻に説明することであり、マレーシア、日本の双方から期待が込められていた。このプランはNTT-MSCの強力なバックアップで成功裏に進み、後にJICAの支援による我が国の政府プロジェクトへ発展していった。

主張は現地新聞にも何度か採用され、Universiti Terbukaとも連携し、教育省高等教育局の指導下でマレーシア国内の機運を高めた。日本からは東海大の遠隔授業や、筑波大と連携した衛星利用の講義配信実験などに発展した。その後は、経済産業省の支援によるAsia e-Learning Newtorkの国際会議の成功裏の開催にも発展した。



ご清聴ありがとうございました